

Salesforce Developer の制限ク イックリファレンス

バージョン 39.0, Spring '17



本書の英語版と翻訳版で相違がある場合は英語版を優先するものとします。

© Copyright 2000–2017 salesforce.com, inc. All rights reserved. Salesforce およびその他の名称や商標は、salesforce.com, inc. の登録商標です。本ドキュメントに記載されたその他の商標は、各社に所有権があります。

目次

Salesforce の制限クイックリファレンスガイド	1
第 1 章: Salesforce アプリケーションの制限	2
Salesforce のエディション別の機能制限	2
Salesforce のエディション別の機能制限の表	2
Salesforce レポートおよびダッシュボードの制限	9
キャンペーンの制限	10
Chatter の制限	11
カスタム項目の制限	13
メール制限	14
Salesforce ナレッジの制限	15
選択リストの制限	17
サイトの制限	18
プロセスの自動化の制限	19
データ関連の制限	24
日付: 日付項目の有効範囲	24
インポートの制限	24
外部データのインテグレーションの制限	26
ルールの制限	27
検索の制限	27
ストレージ容量の制限	28
ファイル関連の制限	30
ファイルサイズの制限	30
ファイル共有の制限	31
Sandbox の制限	31
第 2 章: Force.com プラットフォームの制限	32
Apex ガバナ制限	32
API の制限	39
API 要求の制限	39
Chatter REST API の制限	41
Bulk API の制限	41
API クエリカーソルの制限	43
SOAP API コールの制限	43
ストリーミング API の制限	44
メール制限	46
メタデータの制限	47
SOQL と SOSL の制限	47
Visualforce の制限	52

Salesforce の制限クイックリファレンスガイド

このガイドでは、一般的に参照される Salesforce の制限を取り上げています。

このガイドはすべての制限を網羅しているわけではなく、Salesforce 組織によっては適用されない制限もあります。すべての状況で指定されたリソースが規定の制限まで使用できるとは限りません。たとえば、負荷、パフォーマンスやその他のシステムの問題によってはその制限に達する前に使用できなくなる場合があります。また、このガイドには次の制限は含まれていません。

- Salesforce アプリケーションのユーザインターフェース要素
- Salesforce オブジェクトの項目の長さ
- デスクトップインテグレーションクライアント
- Salesforce 契約

Salesforce 機能の管理に関する制限については、「[Salesforce の制限](#)」を参照してください。

Salesforce 契約により、契約上の制限が適用される場合もあります。

第1章 Salesforce アプリケーションの制限

この章には、Salesforce の制限が記載されています。

Salesforce のエディション別の機能制限

エディション別の Salesforce 機能の制限は次のとおりです。

Salesforce のエディション別の機能制限の表

次の表には、Salesforce アプリケーションの一部の機能の制限がエディション別にまとめられています。表の後に脚注があります。この表に含まれていない機能の制限情報は、このガイドの後のセクションを確認してください。

機能	Personal Edition	Contact Manager	Group Edition	Professional Edition	Enterprise Edition	Unlimited Edition と Performance Edition	Developer Edition
アクションプラン:ToDoの最大数	なし				75		
有効なルックアップ検索条件	オブジェクトにつき最大 5 項目。						
オブジェクトあたりの有効な入力規則	なし	20			100	500	100
添付ファイル:[メモ & 添付ファイル]関連リストの最大サイズ ¹		添付ファイル: 25 MB。フィードの添付ファイル: 2 GB。					
カテゴリ:カテゴリおよび階層レベルのデフォルトの最大数	なし				1つのデータカテゴリグループに 100 個のカテゴリ 1つのデータカテゴリグループ階層に 5 個のレベル		
カテゴリグループ:デフォルトの最大数					カテゴリグループ 5 つ、一度に有効にできるグループ 3 つ		
証明書: 最大数					50		
コンテンツ配信:直近24時間あたりのデフォルトの配信帯域幅	10 GB						

機能	Personal Edition	Contact Manager	Group Edition	Professional Edition	Enterprise Edition	Unlimited Edition と Performance Edition	Developer Edition
コンテンツ配信:直近24時間あたりのデフォルトの配信参照カウント数	20,000						
コンテンツ配信:オンライン参照の最大ファイルサイズ	25 MB						
コンテンツ:最大ファイルサイズ	2 GB - Chatter REST API によるアップロード時: 2 GB (ヘッダーを含む) - REST API によるアップロード時: 2 GB (ヘッダーを含む) - SOAP API によるアップロード時: 38 MB - Bulk API によるアップロード時: 10 MB - Google ドキュメント: 10 MB - Visualforce によるアップロード時: 10 MB						
コンテンツ:ライブラリの最大数	2,000						
コンテンツ:ドキュメントの最大数	10,000,000						
コンテンツ:24時間あたりのドキュメントおよびバージョンの最大数 (調整可能)	36,000						2,500
コンテンツパック:最大ファイル数	なし	50					
カスタムアプリケーション ²	なし	1		255 この制限を緩和するには、Salesforce にお問い合わせください。	260 この制限を緩和するには、Salesforce にお問い合わせください。	制限なし	10
オブジェクトあたりのカスタム項目 ³	5	25	100		500	800	500

機能	Personal Edition	Contact Manager	Group Edition	Professional Edition	Enterprise Edition	Unlimited Edition と Performance Edition	Developer Edition
カスタム表示ラベル	なし			5,000			
カスタムリンク:表示ラベルの最大長	1,024 文字						
カスタムリンク: URL の最大長	3,000 バイト ⁴						
カスタムオブジェクト ⁵	なし	5	50		200	2,000	400
カスタムオブジェクト: 多対多のリレーションでの親レコードの削除	なし	削除された親レコードと関連付けられた連結オブジェクトレコードが 200 個を超えておらず、かつ連結オブジェクトに他の親に積み上げ集計される積み上げ集計項目がない場合に使用できます。					
カスタムオブジェクト: 主従関係の最大数		2 ⁶					
カスタム権限	なし				1,000		
カスタムプロファイル: 最大数	なし			2	ユーザライセンスの種類あたり 1,500		
カスタム設定: キャッシュデータの制限	10MB か、1 MB×組織のフルユーザライセンス数のいずれか少ない容量 (Contact Manager Edition および Professional Edition ではなし)						
カスタム設定:設定あたりの項目の最大数	5	なし	100	なし	300		
ディビジョン:最大数	なし			100			なし
ドキュメント:カスタムアプリケーションロゴの最大サイズ	20 KB						
ドキュメント:アップロードするドキュメントの最大サイズ	5 MB						
ドキュメント:ファイル名の最大長 (拡張子を含む)	255 文字						
エンタイトルメントプロセスとマイルストーン	なし			エンタイトルメントプロセスは合計で 1,000 個まで、マイルストーンはプロセスごとに 10 個まで作成できます。組織が Summer '13 より前に作成された場合、エンタイトルメントプロセスの最大			

機能	Personal Edition	Contact Manager	Group Edition	Professional Edition	Enterprise Edition	Unlimited Edition と Performance Edition	Developer Edition
				数はこれより小さくなる場合があります。 Salesforce に問い合わせて最大数を増やします。			
外部オブジェクト ⁷	なし				200		
項目履歴管理:標準またはカスタムオブジェクトで追跡する標準またはカスタム項目の最大数	なし	20					
ファイルサイズ: Chatter および [ファイル] タブの最大ファイルサイズ	2 GB						
会計年度:カスタムの最大数	250						
数式:数式の評価後に表示される最大文字数	1,300						
数式: 最大文字数	3,900 文字						
数式:コンパイル完了時の最大サイズ	5,000 バイト						
数式:保存時の最大サイズ	4,000 バイト						
数式:オブジェクトあたりの一意のリレーション数	15						
数式:オブジェクトあたりの VLOOKUP 関数の数	10						
アイデア: HTML 形式のアイデアのコメントの最大サイズ	なし			4 KB			
アイデア: HTML 形式のアイデアの説明の最大サイズ				32 KB			
Lightning アプリケーション	なし			10	25	制限なし	なし

機能	Personal Edition	Contact Manager	Group Edition	Professional Edition	Enterprise Edition	Unlimited Edition と Performance Edition	Developer Edition
Lightning ページ: 単一範囲内のコンポーネントの最大数	25						
主従関係: 子レコードの最大数	10,000 ⁸						
オブジェクト: 削除する結合オブジェクトと子レコードの最大数	100,000						
オムニチャネル: 待機中の転送要求の最大数 ⁹	なし			30,000			
オムニチャネル: キューに入っている作業項目の最大数 ¹⁰				1 時間あたり 5,000			
商談チーム: メンバーの最大数	なし				30		
権限セット: 最大数 (作成される場合)	なし	1		2	1,000		
権限セット: 最大数 (インストールされた管理 AppExchange パッケージの一部として作成および追加される権限セット)	なし		1,500				
質問: 最大文字数	なし				1,000		なし
質問: 最大文字数 (Chatter アンサーの「質問フローを最適化」が有効な場合)					32,000		
見積 PDF: ロゴの最大高さ	なし			150 ピクセル			
見積 PDF: ロゴの最大サイズ				5 MB			
ごみ箱: 最大レコード数	MB 単位のストレージ容量の 25 倍						
返信: 最大文字数	なし				1,000		なし

機能	Personal Edition	Contact Manager	Group Edition	Professional Edition	Enterprise Edition	Unlimited Edition と Performance Edition	Developer Edition
返信 (非公開): 最大文字数 (Chatter アンサーの「質問フローを最適化」が有効な場合)					4,000		なし
返信 (公開): 最大文字数 (Chatter アンサーの「質問フローを最適化」が有効な場合)					32,000		なし
Shared Activities	最大 50 件の取引先責任者を定期的でない ToDo、グループではない ToDo、定期的でない行動に関連付けることができます。主取引先責任者を 1 人割り当てられます。その他はすべて副取引先責任者です。						
共有ルール	なし			オブジェクトあたり最大で 300 件の共有ルールを作成し、条件に基づくルールを最大で 50 件含めることができます。			
静的リソース	なし	静的リソースの容量は最大 5 MB です。組織は、合計で最大 250 MB の静的リソースを使用できます。					
タブ ²		3	5	1,210 この制限を緩和するには、Salesforce にお問い合わせください。	1,225 この制限を緩和するには、Salesforce にお問い合わせください。	1,225 この制限を緩和するには、Salesforce にお問い合わせください。	100
タグ	ユーザは次の最大数で制限されます。 - 個人タグの作成数は 500 個まで - 個人タグのレコードへの適用数は 5,000 件まで すべてのユーザを対象として、組織で持つことができるそれぞれの最大数は次のとおりです。 - 公開タグの作成数は 1,000 個まで - 公開タグのレコードへの適用数は 50,000 件まで - 個人タグと公開タグのレコードへの適用数は 5,000,000 件まで						
テリトリリー:取引先割り当てルールの最大数	なし				15		

機能	Personal Edition	Contact Manager	Group Edition	Professional Edition	Enterprise Edition	Unlimited Edition と Performance Edition	Developer Edition
ユーザ: 最大作成数	1	5	10	制限なし			2
ユーザ: 最大作成数 (Chatter Free)	なし	5,000					
Visual Workflow	なし				各フローの制限は次のとおりです。 50 のバージョン 2,000 ステップ 各組織の制限は次のとおりです。 500 の有効なフロー 1,000 の合計フロー - 一時点の待機中インタビュー数は 30,000 件 1 時間あたりに処理される行動は 1,000 件 - フローおよびフローバージョン全体の定義済み相対アラームイベントは 20,000 件		
Web-to-ケース:24時間あたりの生成する新規ケースの最大件数	なし			5,000 ¹¹			
Web-to-リード:24時間あたりの生成する新規リードの最大件数	なし			500 ¹¹			

¹ ケース、ソリューション、キャンペーン、ToDo、または行動の [添付ファイル] 関連リストか、取引先、取引先責任者、リード、商談、またはカスタムオブジェクトの [メモ & 添付ファイル] 関連リストに添付ファイルを追加できます。ToDo の関連リストまたは行動ページレイアウトが表示されない場合は、追加するようシステム管理者に依頼する必要があります。

² AppExchange に公開して投稿された管理パッケージに含まれるカスタムアプリケーションとカスタムタブは、ご使用の Salesforce エディションの制限数の対象になりません。

³ その他の制限が、活動項目、ロングテキストエリア項目、リレーション項目、積み上げ集計項目に適用されます。

⁴ データが URL のトークンと入れ替えられる場合、リンクが 3,000 バイトを超える可能性があります。ブラウザによっては、URL の最大長に追加の制限が適用されます。

⁵ AppExchange に公開して投稿された管理パッケージに含まれるカスタムオブジェクトは、ご使用の Salesforce エディションの制限数の対象になりません。オブジェクトのソースや名前空間にかかわらず、組織は 2,000 を超えるカスタムオブジェクトを同時に持つことはできません。論理削除したカスタムオブジェクトとそのデータは、制限の対象に含まれます。不要なカスタムオブジェクトは物理削除または消去することをお勧めします。

⁶ それぞれのリレーションは、規定されているカスタム項目の最大数に計数されます。

⁷ 200 件の外部オブジェクト制限は、組織で購入する Salesforce Connect アドオン数に関係なく適用されます。外部オブジェクトは、カスタムオブジェクトの制限でカウントされません。

⁸ ベストプラクティスとして、主従関係の子レコードは 10,000 を超えることはできません。

⁹ 組織でオムニチャネルルーティングを待機中にできるオブジェクトの最大数。オムニチャネル対応キューに項目が割り当てられると、オムニは対応可能なエージェントにその項目を転送しようとします。エージェントがいない場合は、その作業の転送が待機中になります。

¹⁰ すべてのオムニチャネル対応キューについて、組織で 1 時間あたりにキュー可能なレコードの最大数。項目がオムニチャネルキューに割り当てられるたびに、直前の 1 時間でキューに入れられた項目数がプラットフォームで確認されます。制限に達した場合、項目はキューに割り当てられません。

¹¹ 組織が日次の Web-to-ケースまたは Web-to-リードの制限数を超えた場合、デフォルトのケース所有者またはデフォルトのリード作成者にケースまたはリードの情報を含む通知メールが送信されます。組織が 24 時間の制限に達した場合は、Salesforce では Web-to-ケース要求および Web-to-リード要求を含む待機中の要求のキューに追加の要求を格納します。要求は制限が更新されると申請されます。待機中の要求のキューの制限は合計 50,000 件です。組織が待機中の要求の制限に達すると、制限を超える要求は却下され、キューに入れられません。システム管理者は、申請が却下された最初の 5 件のメールに関して通知を受け取ります。組織の待機中の要求の制限を変更するには、Salesforce カスタマーサポートにお問い合わせください。

Salesforce レポートおよびダッシュボードの制限

機能	Personal Edition	Contact Manager	Group Edition	Professional Edition	Enterprise Edition	Unlimited Edition と Performance Edition	Developer Edition		
カスタムレポートタイプ (制限は、開発状況に関係なく、すべてのカスタムレポートタイプに適用される)	なし			50	200	2,000	400		
ダッシュボード検索条件				1 ダッシュボードにつき 3 個					
1 組織あたりの動的ダッシュボード数	なし						最大 5 個	最大 10 個	最大 3 個
レポートあたりの項目検索条件数 ¹	20								

機能	Personal Edition	Contact Manager	Group Edition	Professional Edition	Enterprise Edition	Unlimited Edition と Performance Edition	Developer Edition
レポートあたりの数式	5						
レポート作成スナップショット	なし			1 ² 、3、4	1 ²	2 ²	1 ² 、3、4
ダッシュボードの更新のスケジュール設定	なし				1 ²	2 ²	なし
時間あたりのスケジュール済みレポート (メール送信するレポートの容量は最大 10 MB)。	なし			1 ² 、3、5	1 ²	2 ²	1 ² 、3、5

¹ これらの制限はレポートビルダーに適用されます。レポートウィザードを使用している場合、制限は 10 です。

² 合計で最大 200 まで。

³ オフピーク時 (ローカル時間の午後 6 時 ~ 午前 3 時) のみ。

⁴ 希望開始時刻は 1 日 1 つに制限されます。

⁵ 希望開始時刻は 1 日 3 つに制限されます。

キャンペーンの制限

取引先責任者ソース	取引先責任者をキャンペーンに追加するステップ	追加が可能な最大レコード数
既存の取引先責任者のレポート	標準レポートからキャンペーンメンバーを追加	1 レポートにつき 50,000 件
既存の取引先責任者の CSV ファイル	データインポートウィザードを使用した既存の取引先責任者のキャンペーンへの追加	1 インポートファイルにつき 50,000 件
新しい取引先責任者の .CSV ファイル	データインポートウィザードを使用した取引先責任者の作成およびキャンペーンへの追加	1 インポートファイルにつき 50,000 件
既存の取引先責任者のリストビュー	リストビューから複数のメンバーをキャンペーンに追加	1 リストページにつき 250 件

リードソース	リードをキャンペーンに追加するステップ	追加が可能な最大レコード数
既存のリードのレポート	標準レポートからキャンペーンメンバーを追加	1 レポートにつき 50,000 件
既存のリードの .CSV ファイル	データインポートウィザードを使用したキャンペーンへの既存のリードの追加	1 インポートファイルにつき 50,000 件
新規リード一覧の CSV ファイル	データインポートウィザードを使用したリードの作成およびキャンペーンへの追加	1 インポートファイルにつき 50,000 件
既存のリードのリストビュー	リストビューから複数のメンバーをキャンペーンに追加	1 リストページにつき 250 件

キャンペーン影響期間

キャンペーン影響期間条件は、最大 9,999 日です。

キャンペーン階層

5 レベルまで格納できる階層。各キャンペーンに対して設定できる親キャンペーンは1つですが、子キャンペーンの数は無制限です。

Chatter の制限

機能	制限
グループ	
ユーザが参加可能なグループ	300 ¹
組織内のグループ	30,000 ¹
グループ内のメンバー	制限なし
グループの情報項目の文字数	4,000
メールでグループに投稿する場合のメールの最大サイズ (テキストと添付ファイルを含む)	25 MB
メールでグループに投稿する場合に含めることのできる添付ファイル数	25
フィード	
1 つの投稿またはコメント内のメンション	25
メンション検索文字列の文字数	ユーザの姓と名 (合計) またはグループ名は 500 文字

機能	制限
1つの投稿またはコメント内の文字数	10,000
投稿に対していいね!と言ったか、コメントした後 に送信されるメール通知の件数	10
ブックマーク	制限なし
お気に入り	50
フォローできる人、トピック、およびレコード	500 ²
任意の時点でフィードに表示できる投稿の最大数	500件の最新の投稿。この制限は、プロ ファイル、グループ、レコードフィー ドには適用されません。
ファイル	
ファイル添付サイズ	2 GB
ファイルを共有できる回数	100
人とプロフィール	
プロフィール写真のサイズ	8 MB
チャットに追加できるユーザ数	10
チャットの[私のお気に入り]に追加できるユーザ数	100
Chatter メッセージの文字数	10,000
スキル	
ユーザに割り当てられるスキル数	100
スキル名の文字数	99
トピック	
1つの投稿でのトピック数	10
単一レコードのトピック	100
トピック名の文字数	99

¹アーカイブ済みグループを除く、すべてのグループがこの制限にカウントされます。たとえば、300グループ
(そのうち10グループはアーカイブ済み)のメンバーになっている場合、さらに10グループに参加できます。

²合計で最大500の人、トピック、およびレコードをフォローできます。自分が何件の項目をフォローしている
かを確認するには、プロフィールの[フォローしている人]リストを表示します。

Chatter Plus 機能	制限
組織の Chatter Plus ライセンス	制限なし
Chatter Plus ユーザあたりのデータストレージ	20 MB
Chatter Plus ユーザあたりのファイルストレージ (Professional Edition)	612 MB
Chatter Plus ユーザあたりのファイルストレージ (Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition)	2 GB

Chatter でのユーザによる投稿とコメントは、顧客の該当する組織がプロビジョニングされている間は常に保持されます。salesforce.com は次の制限を適用する権利を有します。

- システムで生成されるフィード更新追跡数。現在追跡されているフィード更新のうち、46 日以上前のもので、いいね! もコメントもない更新は、自動的に削除されます。そのフィード更新追跡はフィードに表示されなくなります。ただし、項目追跡の監査が有効な場合、その項目の監査履歴は引き続き使用できます。
- 1 組織が 1 時間あたりに送信できるメール通知の数。

これらの制限は変更される場合があります。詳細は、Salesforce にお問い合わせください。

Salesforce Files の検索の制限

検索では、複数のファイルの種類がサポートされ、ファイルサイズに制限があります。ファイルが最大サイズを超える場合、そのファイル内のテキストは検索されませんが、ファイルの名前、説明、種類、および所有者は検索されます。次の表では、ファイル内のテキストを検索可能な最大ファイルサイズを記載しています。

ファイルの種類	ファイル拡張子	検索の最大ファイルサイズ
HTML	.htm、.html、.xhtml	5 MB
PDF	.pdf	25 MB
PPT	.ppt、.pptx、.pptm	25 MB
RTF	.rtf	5 MB
テキスト	.c、.cpp、.css、.csv、.ini、.java、.log、.sql、.txt	5 MB
Word	.doc、.docx、.docm	25 MB
XLS	.xls、.xlsx、.xlsm	5 MB
XML	.xml	5 MB

カスタム項目の制限

オブジェクトあたりの使用できるカスタム項目数は、Salesforce のエディションによって異なります。活動項目、ロングテキストエリア項目、リッチテキストエリア項目、リレーション項目、および積み上げ集計項目の最大数も同様に異なります。

データ型	Personal Edition	Contact Manager	Group Edition	Professional Edition	Enterprise Edition	Developer Edition	Unlimited Edition と Performance Edition
活動	なし			20	100		
ロングテキストエリア	項目のデータ型に関係なく、オブジェクトに許可されるカスタム項目の合計数に関するエディションの制限は適用されますが、オブジェクトには、リッチテキストエリア項目やロングテキストエリア項目を無制限に含めることができます。各オブジェクトは、ロングテキストエリア項目とリッチテキストエリア項目で 160 万文字を使用できます。ロングテキストエリア項目またはリッチテキストエリア項目を作成するとき、項目の文字数制限、つまり入力可能なテキストの最大長を設定します。ロングテキストエリア項目とリッチテキストエリア項目のデフォルトの文字数制限は、32,768 文字 (32 KB) です。ロングテキストエリア項目とリッチテキストエリア項目の最大文字数制限は、131,072 文字 (128 KB) です。最小文字数制限は 256 文字です。リッチテキストエリア項目にアップロードできる画像の最大サイズは 1 MB です。						
リッチテキストエリア							
リレーション	なし	40					
積み上げ集計		25					

メール制限

機能	Personal Edition	Contact Manager	Group Edition	Professional Edition	Enterprise Edition	Unlimited Edition と Performance Edition	Developer Edition
メールテンプレート:最大サイズ	テキストメールテンプレート: 384 KB	- テキスト、HTML、およびカスタム HTML テンプレート: 384 KB - Visualforce テンプレート: 1 MB					
メールサービス: Salesforce で処理する 1 日あたりのメールメッセージの最大数	なし			ユーザライセンス数 × 1,000、最大数 1,000,000			
メールサービス:メールメッセージの最大サイズ(メールヘッダー、本文、添付ファイル、エンコード)				25 MB ¹			

機能	Personal Edition	Contact Manager	Group Edition	Professional Edition	Enterprise Edition	Unlimited Edition と Performance Edition	Developer Edition
拡張差し込み印刷:最大レコード数	1,000						
拡張差し込み印刷:選択したテンプレートの最大合計サイズ	1 MB						
Salesforce に送信される受信メール	- メール本文切り捨てサイズ: 32 KB - 受信したメールごとに作成されるメール活動の最大数: 50 - 添付ファイルの最大合計サイズ: 25 MB¹						
差し込み項目: Case.Email_Thread	なし		- 最大メール数: 200 - メール本文切り捨てサイズ: 32 KB				
オンデマンドメール-to-ケース:Salesforce で処理する 1 日あたりのメールメッセージの最大数 (メールサービスの制限に対してカウント)	なし			ユーザライセンス数 × 1,000、最大数 1,000,000			
オンデマンドメール-to-ケース:メールの最大サイズ(メールヘッダー、本文、添付ファイル、エンコード)				25 MB ¹			

¹メールサービスのメールメッセージの最大数は、言語および文字セットによって異なります。メールメッセージのサイズには、メールヘッダー、本文、添付ファイル、エンコードが含まれます。そのため、添付ファイルが 25 MB のメールは、ヘッダー、本文、エンコードを考慮すると、メールメッセージのサイズ制限 25 MB を超える可能性があります。

送信メールの制限の詳細は、「[メール制限](#)」を参照してください。

Salesforce ナレッジの制限

Salesforce ナレッジの制限	Classic ナレッジの詳細	Lightning Knowledge の詳細
最大記事数	50,000 個の記事	50,000 個の記事
最大記事タイプ	100 個の記事タイプ	なし

Salesforce ナレッジの制限	Classic ナレッジの詳細	Lightning Knowledge の詳細
記事タイプあたりの最大カスタム項目数	Enterprise Edition、Developer Edition、および Unlimited Edition: 記事タイプあたり 500 個のカスタム項目 Performance Edition: 記事タイプあたり 800 個のカスタム項目	なし
最大ファイル項目	5 個のファイル項目	なし
最大ファイルサイズ	ファイル項目は添付ファイルとしてカウントされます。最大 25 MB です。	ファイルは最大 25 MB です。
最大リッチテキストエリアサイズ	131072 文字	131072 文字
記事のすべてのリッチテキストエリア項目の最大サイズ	1638400 文字	1638400 文字
リッチテキストエリア項目での一意の最大記事参照 (リンク) 数	1つのリッチテキスト項目で、異なる Salesforce ナレッジ記事に最大 100 個のリンクを設定できます。	1つのリッチテキスト項目で、異なる Salesforce ナレッジ記事に最大 100 個のリンクを設定できます。
記事履歴の追跡	記事イベントは、最長 18 か月間追跡されます。	記事イベントは、最長 18 か月間追跡されます。
最大サポート言語数	16 個のサポート言語	なし
記事のインポート	インポート .zip ファイルは次の要件を満たす必要があります。 • .csv ファイルと .properties ファイルをそれぞれ 1 つのみ含めることができます。 • .csv ファイルと .properties ファイルがルートディレクトリに配置されている必要があります。 • 圧縮プロセスでフォルダとサブフォルダの構造を維持する必要があります。 • .zip ファイル名に特殊文字は使用できません。 • .zip ファイルは 20 MB を、zip ファイル内の各非圧縮ファイルは 10 MB を超えることはできません。 • ヘッダー行を含め .csv ファイルに 10,000 を超える行を含めるこ	なし

Salesforce ナレッジの制限	Classic ナレッジの詳細	Lightning Knowledge の詳細
	とはできません。したがって、最大9,999個の記事と翻訳を含めることができます。 • .CSV ファイルの行が 400,000 文字を超えることはできません。 • .CSV ファイルのセルが 32 KB を超えることはできません。 • .CSV ファイルの各記事に 50 以上の翻訳を含めることはできません。	
最大データカテゴリグループ数および有効なデータカテゴリグループ	カテゴリグループ5つ、一度に有効にできるグループ3つ	カテゴリグループ5つ、一度に有効にできるグループ3つ
データカテゴリグループあたりの最大カテゴリ数	1つのデータカテゴリグループに100個のカテゴリ	1つのデータカテゴリグループに100個のカテゴリ
データカテゴリグループ階層あたりの最大レベル数	1つのデータカテゴリグループ階層に5個のレベル	1つのデータカテゴリグループ階層に5個のレベル
記事に割り当てられたデータカテゴリグループの最大データカテゴリ数	記事に割り当てられたデータカテゴリグループの8個のデータカテゴリ	記事に割り当てられたデータカテゴリグループの8個のデータカテゴリ
昇格済み検索語の最大数	組織で最大 2,000 個の昇格済み用語を作成できます。	なし

選択リストの制限

選択リストに使用できる最大文字数は、選択リストの種別によって異なります。選択リストの各値には改行と復帰の記号が含まれますが、これらは表示されません。値ごとに追加されるこの2文字も、各値の文字制限に数えられます。

標準選択リストのその他の制限

標準選択リストの場合、各値には改行と復帰を除く最大 255 文字を含めることができます。これは単一選択リストと複数選択リストに適用されます。

レコードタイプまたはトランスレーションワークベンチを使用する組織の標準選択リストの場合、値数に制限はありませんが、次のような特殊な選択リストは例外です。

選択リスト項目	値の最大数
リード状況	100

選択リスト項目	値の最大数
ToDo の状況	100
ToDo の優先度	50
ケースの状況	100
ケース優先度	50
商談フェーズ	100

カスタム選択リストの制限

単一選択のカスタム選択リストの場合は次のようになります。

- 最大 1,000 個の値
- 値あたり最大 255 文字

 **メモ:** これらの制限は、カスタム制限付きおよびカスタム制限なしの選択リストに適用されます。

複数選択のカスタム選択リストの場合は次のようになります。

- 最大 500 個の値
- 値あたり最大 255 文字

ユーザは 1 レコードに対し一度に最大 100 個の値を選択できます。

1 つの組織に最大 500 個のグローバル選択リスト値セットを設定できます。各グローバル値セットには、有効な値と無効な値を合わせて最大 500 個含めることができます。グローバル選択リスト値セットを使用するカスタム選択リストの数に制限はありません。

サイトの制限

エディション	最大サイト数	帯域幅制限 (直近の 24 時間/サイトあたり)	サービス要求時間 (直近の 24 時間/サイトあたり)	最大ページビュー
Developer Edition	1	500 MB	10 分	なし
Enterprise Edition	25	Sandbox 1 GB 本番 40 GB	Sandbox 30 分 本番 60 時間	500,000
Unlimited Edition Performance Edition	25	Sandbox 1 GB 本番 40 GB	Sandbox 30 分 本番 60 時間	1,000,000

プロセスの自動化の制限

プロセスビルダーの制限

プロセスビルダーを使用するときは、共通の制限および Apex ガバナ制限に留意してください。

Visual Workflow の制限

Visual Workflow を使用するときは、フローの制限と Apex ガバナ制限に留意してください。

ワークフローの制限

メールアラートの日次制限

メールアラートから送信されるメールの 1 日の制限は、1 組織につき標準 Salesforce ライセンスあたり 1,000 件です。ただし無料の Developer Edition およびトライアル組織は例外で、1 日のワークフローメールの制限は 15 件になります。組織全体での制限は 2,000,000 件です。この制限は、ワークフロールール、承認プロセス、フローまたは REST API でメールアラートから送信されるメールに適用されます。

承認プロセスの制限

プロセスビルダーの制限

プロセスビルダーを使用するときは、共通の制限および Apex ガバナ制限に留意してください。

他の機能と共通する制限

プロセスには、ルールおよび Visual Workflow と共通するいくつかの制限があります。

次の制限に加え、プロセスの [API 参照名] は、組織内のすべてのプロセスおよびフローで一意である必要があります。

説明	組織単位の制限
オブジェクトごとに有効なルールおよび有効なプロセスの合計数。	50
ルールには、ワークフロールール、エスカーレーションルール、割り当てルール、自動割り当てルールが含まれます。呼び出し可能なプロセスはこの制限にカウントされません。	
フローおよびプロセスの合計数	1,000
有効なフローおよびプロセスの数	500
評価される条件ノードおよびランタイムで実行されるアクションの合計数	2,000
1 時間あたりに再開されるフローインタビューまたは実行されるスケジュール済みアクショングループの合計数	1000

エディション

使用可能なエディション:
Salesforce Classic および
Lightning Experience の両方

使用可能なエディション:
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

説明	組織単位の制限
処理を待機しているフローインタビューまたはスケジュール済みアクショングループの合計数	30,000
プロセスの項目値に基づいてフローバージョンまたはスケジュールで定義される相対時間のアラームの合計数	20,000

メールアラートから送信されるメールの1日の制限は、1組織につき標準 Salesforce ライセンスあたり 1,000 件です。これは、標準 Salesforce ライセンスあたりの1日のワークフローメールの制限が15件である、Developer Edition 組織を除きます。組織全体での制限は2,000,000件です。この制限は、ワークフローメールアラートを使用するすべての機能 (ワークフロールール、承認プロセス、フロー、プロセス) に共通します。

Apex ガバナとプロセスの制限

Salesforce では、マルチテナント環境で回避プロセスが共有リソースを独占しないように、厳格に制限が適用されます。プロセスは、Apex で適用されるトランザクション単位の制限によって制御されます。プロセスによってトランザクションがガバナ制限を超えた場合、システムはトランザクション全体をロールバックします。トランザクションに含まれる操作についての詳細は、『*Force.com Apex 開発者ガイド*』の「トリガと実行の順序」を参照してください。

説明	トランザクション単位の制限
発行される SOQL クエリの合計数	100
SOQL クエリによって取得されるレコードの合計数	50,000
発行される DML ステートメントの合計数	150
DML ステートメントの結果として処理されるレコードの合計数	10,000

各 [レコードを作成] アクションでは、1つの DML ステートメントが使用されます。各 [クイックアクション] アクションでは、1つの DML ステートメントが使用されます。各 [レコードを更新] アクションでは、1つの SOQL クエリと1つの DML ステートメントが使用されます。各 [フロー] アクションでは、フローで実行される要素に応じて、複数の SOQL クエリと DML ステートメントを使用できます。詳細は、「[Visual Workflow の制限](#)」(ページ 21)を参照してください。

その他のプロセスの制限

プロセスを作成および管理するときは、次の制限に留意してください。

説明	制限
プロセス名の合計文字数	255
プロセスの API 名の合計文字数	77

説明	制限
プロセスのバージョンの合計数	50
プロセスの条件ノードの合計数	200

Visual Workflow の制限

Visual Workflow を使用するときは、フローの制限と Apex ガバナ制限に留意してください。

フローあたりのバージョンの最大数	50
実行時の要素の最大実行回数	2,000
組織あたりの有効なフローとプロセスの最大数	500
組織あたりのフローとプロセスの最大数	1,000
一度に待機しているフローインタビューまたは (プロセスの) スケジュール済みアクショングループの最大数	30,000
1時間あたりに再開されるフローインタビューまたは実行されるスケジュール済みアクショングループの最大数	1,000
プロセスの項目値に基づいてフローバージョンまたはスケジュールで定義される相対時間のアラームの最大数	20,000

エディション

使用可能なエディション:
Salesforce Classic および
Lightning Experience の両方

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

ワークフローの制限

説明	組織単位の制限
オブジェクト全体のワークフロールール合計数 (この制限は、ワークフロー、割り当て、自動レスポンス、およびエスカレーションの有効なルールと無効なルール両方の任意の組み合わせに適用されます)	2,000
オブジェクトあたりのワークフロールール合計数 (この制限は、ワークフロー、割り当て、自動レスポンス、およびエスカレーションの有効なルールと無効なルール両方の任意の組み合わせに適用されます)	500
オブジェクトあたりの有効なワークフロールール合計数	50

説明	組織単位の制限
(この制限は、プロセスとワークフロー、割り当て、自動レスポンス、およびエスカレーションの有効なルール of 任意の組み合わせに適用されます)	
ワークフロールールあたりのタイムトリガ合計数 ¹	10
ワークフロールールあたりのルール適用時のアクション合計数 ¹	40
タイムトリガあたりの時間ベースのアクション合計数	40
1 日あたりのワークフローメール	標準 Salesforce ライセンスあたり 1,000 件 (Developer Edition では 15 件)、組織あたり 2,000,000 件
1 時間あたりのワークフロータイムトリガ数	50
フロートリガワークフローアクション: フロー変数の割り当て ²	25 (Professional Edition ではなし)

¹ルール適用時のアクションと各タイムトリガの制限は、次のとおりです。

- 最大 10 回のメールアラート
- 最大 10 件の ToDo
- 最大 10 項目の更新
- 最大 10 件のアウトバウンドメッセージ
- 最大 10 件のフロートリガ²

²フロートリガワークフローアクションのパイロットプログラムは終了しました。組織でパイロットをすでに有効にしている場合は、引き続きフロートリガワークフローアクションを作成および編集できます。組織でパイロットを有効にしなかった場合は、代わりにプロセスビルダーの [\[フロー\] アクション](#) を使用します。

メールアラートの日次制限

メールアラートから送信されるメールの 1 日の制限は、1 組織につき標準 Salesforce ライセンスあたり 1,000 件です。ただし無料の Developer Edition およびトライアル組織は例外で、1 日のワークフローメールの制限は 15 件になります。組織全体での制限は 2,000,000 件です。この制限は、ワークフロールール、承認プロセス、フローまたは REST API でメールアラートから送信されるメールに適用されます。

組織が日次ワークフローメールの制限に到達すると、次のようになります。

- ワークフローキュー内に残っており、その日に送信されないメールは破棄されます。Salesforce ではこれらのメールを後で再送信しません。
- アクションを伴うワークフロールールとメールアラートが起動された場合、メールアクションのみがブロックされます。
- 最終承認、最終却下、承認、却下、メール取り消しアクションはブロックされます。
- エラーメッセージがデバッグログに追加されます。

次の項目は、ワークフローメール制限にはカウントされません。

- 承認通知メール
- ToDo 割り当て通知
- リードの割り当てルール通知
- ケースの割り当てルール通知
- ケースのエスカレーションルール通知
- Force.com サイトの利用状況のアラート

制限は、GMT の午前 0 時に開始および終了する 24 時間の活動に基づいています。ユーザライセンスを追加または削除すると、制限数の合計がすぐに調整されます。メールアラートをグループに送信すると、そのグループのすべての受信者が 1 日あたりのワークフローメール制限としてカウントされます。

ワークフローメールアラートが特定の制限に近づいている場合や制限を超えた場合、Salesforce は警告メールをデフォルトのワークフローユーザに送信します。デフォルトのワークフローユーザが設定されていない場合は、有効なシステム管理者に送信します。

状況	Salesforce から送信される警告メール	警告メールの内容
1 件のメールの受信者数の制限を超えているため、メールアラートが送信されない	未送信メールアラートごとに 1 件の警告メール	未送信メールアラートのコンテンツおよび受信者
組織の 1 日あたりのメール制限の 90% に達している	1 件の警告メール	制限および組織の利用状況
組織の 1 日あたりのワークフローメール制限の 90% に達している	1 件の警告メール	制限および組織の利用状況
組織の 1 日あたりのメール制限に達しているため、メールアラートが送信されない	制限を超えたメールアラートの試行 100 件ごとに 1 件の警告メール	制限および組織の利用状況
組織の 1 日あたりのワークフローメール制限に達しているため、メールアラートが送信されない	制限を超えたメールアラートの試行 100 件ごとに 1 件の警告メール	制限および組織の利用状況

承認プロセスの制限

制限	詳細
組織あたりの承認プロセス合計数	1,000
オブジェクトあたりの承認プロセス合計数	300
承認プロセスあたりのステップ合計数	30
ステップあたりの承認者合計数	25

制限	詳細
承認プロセスあたりの申請時のアクション合計数 ²	40
承認プロセスあたりの最終承認時のアクション合計数 ²	40
承認プロセスあたりの最終却下時のアクション合計数 ²	40
承認プロセスあたりの取り消しアクション合計数 ²	40
承認申請コメントの最大文字数	4,000 中国語、日本語、または韓国語の場合は 1,333 文字に制限されます。

データ関連の制限

Salesforce に保存されるデータに関連する制限は次のとおりです。

日付: 日付項目の有効範囲

特定の範囲内の日付のみが有効です。最も早い有効な日付は 1700-01-01T00:00:00Z GMT、つまり、1700 年 1 月 1 日の午前 0 時です。有効な日付の最大値は 4000-12-31T00:00:00Z GMT、つまり、4000 年 12 月 31 日の午前 0 時です。これらの値は、タイムゾーンごとのオフセットとなります。たとえば、太平洋タイムゾーンでは、最も早い有効な日付は 1699-12-31T16:00:00、つまり 1699 年 12 月 31 日の午後 4 時です。

インポートの制限

レコードタイプ	インポートレコードの件数制限	必要なユーザ権限
自分が所有する法人取引先と取引先責任者	データインポートウィザードを使用して一度に 50,000 件	取引先に対する「作成」 および 取引先に対する「編集」 および 「個人データのインポート」
他のユーザが所有する法人取引先と取引先責任者	一度に 50,000 件	取引先に対する「作成」 および 取引先および取引先責任者に対する「編集」 および

レコードタイプ	インポートレコードの件数制限	必要なユーザ権限
		「すべてのデータの編集」
自分が所有する個人取引先	一度に 50,000 件	取引先に対する「作成」 および 取引先に対する「編集」 および 「個人データのインポート」
他のユーザが所有する個人取引先	一度に 50,000 件	取引先に対する「作成」 および 取引先および取引先責任者に対する「編集」 および 「すべてのデータの編集」
リード	一度に 50,000 件	「リードのインポート」
キャンペーンメンバー	一度に 50,000 件	インポートするデータに応じて異なります。 • キャンペーンメンバーの状況 • 既存の取引先責任者 • 既存のリード • 既存の個人取引先 • 新規取引先責任者 • 新規リード
カスタムオブジェクト	一度に 50,000 件	「カスタムオブジェクトのインポート」 および カスタムオブジェクトに対する「編集」
ソリューション	一度に 50,000 件	「ソリューションのインポート」
納入商品 ケース キャンペーン 契約	これらのレコードはデータインポートウィザードを使用してインポートできません。	

レコードタイプ	インポートレコードの件数制限	必要なユーザ権限
ドキュメント		
商談		
商品		

 **メモ:** インポートファイルは最大 100 MB にすることができますが、ファイルの各レコードは 400 KB を超えることができず、これは約 4,000 文字に相当します。インポートできる項目の数を判断するには、 $4,000 / (\text{API 項目名の平均文字数} * 2)$ という数式を使用します。たとえば、項目の平均文字数が 40 である場合は、約 50 の項目をインポートできます。また、インポートされるメモと説明はそれぞれ、32 KB を超えることはできません。32KB より長い説明は切り捨てられます。納入商品、ケース、キャンペーン、契約、ドキュメント、商談、商品は、インポートウィザードではインポートできません。

外部データのインテグレーションの制限

Salesforce Connect 外部オブジェクトおよび外部データソースにはいくつかの制限が適用されます。

Salesforce Connect — すべてのアダプタ

割り当てられたユーザライセンスによって、各ユーザがアクセスできるカスタムオブジェクトの最大数が決まります。その数まで外部オブジェクト権限を付与することもできます。外部オブジェクトは、カスタムオブジェクトの制限でカウントされません。

組織あたりの外部オブジェクトの最大数 ¹	200
外部オブジェクトとその他の種別のオブジェクト全体でのクエリあたりの結合の最大数	4
外部システムから発行される OAuth トークンの最大長	4,000 文字
外部データソースにつき 1 時間あたりに取得される新しい行の最大数。この制限は、大量データの外部データソースまたは以前に取得された行には適用されません。	50,000

¹ 200 件の外部オブジェクト制限は、組織で購入する Salesforce Connect アドオン数に関係なく適用されます。外部オブジェクトは、カスタムオブジェクトの制限でカウントされません。

Salesforce Connect — OData 2.0 アダプタ

組織には次の制限があります。

- Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition では、1 時間あたり 10,000 個の OData コールアウト。要求に応じて制限を緩和できます。
- Developer Edition では、1 時間あたり 1,000 個の OData コールアウト。

OData の最大 HTTP 要求サイズ	8 MB
OData の最大 HTTP 応答サイズ	8 MB
OData クエリの最大結果セットサイズ	16 MB
OData サブクエリの最大結果セットサイズ	1,000 行

Salesforce Connect — カスタムアダプタ

Apex データ型の制限:

- Double — 18 桁を超える値の精度は失われます。より高い精度を確保するには、double の代わりに decimal を使用します。
- String — 長さが 255 文字を超える場合、文字列は Salesforce のロングテキストエリア項目に対応付けられません。

ルールの制限

次の表に、ルールの制限を示します。

制限	詳細
オブジェクトごとのアクティブなルール (制限は、有効なワークフロールール、割り当てルール、自動レスポンスルール、およびエスカレーションルールの任意の組み合わせに適用されます。)	50
割り当てルール、自動レスポンスルール、およびエスカレーションルール	それぞれ次の制限があります。 • 3,000 件のエントリ • 300 件の数式条件エントリ • エントリごとに 25 件の検索条件
ルールあたりの使用できるアクションの合計	200
許可されたルール数合計 (制限は、有効または無効のワークフロールール、割り当てルール、自動レスポンスルール、およびエスカレーションルールの任意の組み合わせに適用されます。)	オブジェクトあたり 500、組織あたり 2,000

検索の制限

ドキュメント検索では、次のファイル拡張子と最大ファイルサイズがサポートされています。

ファイルの種類	ファイル拡張子	最大サイズ
HTML (<body> タグ内のテキストのみ)	.htm、.html、.xhtml	5 MB
PDF	.pdf	25 MB
PPT	.pot、.pps、.ppt	25 MB
RTF	.rtf	5 MB
テキスト	.c、.cpp、.css、.csv、.ini、.java、.log、.sql、.txt	5 MB
Word	.doc、.dot	25 MB
XLS	.xls、.xlt	5 MB、または最大 100,000 セル
XML	.xml	5 MB

 **メモ:** 最大サイズを超えるドキュメントの内容は検索できません。ただし、ドキュメント項目は検索されます。最初の 100 万文字のみが検索されます。この制限以降のテキストは検索に含まれません。

ストレージ容量の制限

ストレージ容量

ストレージは、次の2つのカテゴリに分類されます。ファイルストレージには、添付ファイル、[ファイル]ホーム、Salesforce CRM Content、Chatter ファイル(ユーザの写真を含む)、[ドキュメント]タブ、ナレッジ記事のカスタムファイル項目、および Site.com のアセット内のファイルが含まれます。データストレージには、次の情報が含まれます。

- 取引先
- 記事タイプ (形式: 「記事タイプ名」)
- 記事タイプ翻訳 (形式: 「記事タイプ名」バージョン)
- キャンペーン
- キャンペーンメンバー
- ケース
- ケースチーム
- 取引先責任者
- 契約
- カスタムオブジェクト
- メールメッセージ
- 行動
- 予測項目
- Google ドキュメント

- アイデア
- リード
- メモ
- 商談
- 商談分割
- 注文
- 見積
- 見積テンプレートのリッチテキストデータ
- ソリューション
- タグ: 固有タグ
- ToDo

データストレージ

データストレージの場合、Contact Manager Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition および Unlimited Edition では、1 GB またはユーザあたりの制限のいずれか大きい方が割り当てられます。たとえば、10 人のユーザがいる Professional Edition 組織の場合は、ユーザ数 $10 \times$ ユーザあたり 20 MB = 200 MB は最小量 1 GB よりも少ないため、1 GB が割り当てられます。100 人のユーザがいる Professional Edition 組織の場合は、ユーザ数 $100 \times 20 \text{ MB} = 2,000 \text{ MB}$ であるため、最小量 1 GB よりも多くの容量が割り当てられます。

ファイルストレージ

Contact Manager Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition では、組織ごとに 10 GB のファイルストレージが割り当てられます。

組織には、標準ユーザライセンスの数に基づいて追加のファイルストレージが割り当てられます。Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition では、ユーザライセンスごとに 2 GB のファイルストレージが組織に割り当てられます。Contact Manager、Group Edition、Professional Edition 組織は、標準ユーザライセンスごとに 612 MB が割り当てられます。これには、ユーザライセンスごとの 100 MB と Salesforce CRM Content 機能ライセンスごとの 512 MB が含まれます。ユーザ数が 10 未満の組織には、ユーザライセンスごとに 100 MB ではなく、ユーザファイルストレージごとに合計 1GB が割り当てられます。

 **メモ:** Salesforce CRM Content が有効であるかどうかにかかわらず、各 Salesforce CRM Content 機能ライセンスに追加のファイルストレージ 512 MB が割り当てられます。

ファイルストレージとデータストレージは同時に計算されないため、大量のレコードまたはファイルをインポートまたは追加する場合、組織のストレージ使用量の変化はすぐには反映されません。

下の表の最小値は、Salesforce および Salesforce Platform ユーザライセンスに適用されます。カスタムユーザライセンスを使用している組織の場合、正確なストレージ容量については、Salesforce にお問い合わせください。ユーザライセンスについての説明は、「[ユーザライセンス](#)」を参照してください。

Salesforce のエディション	組織あたりの最小データストレージ	ユーザライセンスあたりのデータストレージ割り当て	組織あたりのファイルストレージ割り当て	ユーザライセンスあたりのファイルストレージ割り当て
Contact Manager	1 GB	20 MB	10 GB	612 MB
Group				

Salesforce のエディション	組織あたりの最小データストレージ	ユーザライセンスあたりのデータストレージ割り当て	組織あたりのファイルストレージ割り当て	ユーザライセンスあたりのファイルストレージ割り当て
Professional				
Enterprise				
Performance				2 GB
Unlimited		120 MB		
Developer	5 MB			
Personal	20 MB (約 10,000 レコード)	なし	20 MB	なし

ファイル関連の制限

Salesforce に保存されるファイルに関連する制限は次のとおりです。

ファイルサイズの制限

機能	詳細
[添付ファイル] 関連リスト	- 添付ファイル: 25 MB - フィードの添付ファイル: 2 GB
[ドキュメント] タブ	5 MB - カスタムアプリケーションロゴ: 20 KB
Salesforce CRM Content	2 GB - Chatter REST API によるアップロード時: 2 GB (ヘッダーを含む) - REST API によるアップロード時: 2 GB (ヘッダーを含む) - SOAP API によるアップロード時: 38 MB - Bulk API によるアップロード時: 10 MB - Google ドキュメント: 10 MB - Visualforce によるアップロード時: 10 MB
Salesforce ファイル	2 GB
Salesforce ナレッジ	添付ファイル: 5 MB

ファイル共有の制限

ファイルは最大100回まで共有できます。これには、人およびグループと共有するファイル、およびリンクで共有するファイルが含まれます。ファイルの非公開での共有が最大共有回数の100に近くなった場合は、ファイルをフィードに投稿して公開することを検討します。

Sandbox の制限

- Full Sandbox は、作成または最終更新から 29 日経過すると更新できます。29 日以内に Full Sandbox を削除した場合、置き換えるまでに、最終更新日または作成日から 29 日間待機する必要があります。
- Partial Copy Sandbox は、作成または最終更新から 5 日経過すると更新できます。5 日以内に Partial Copy Sandbox を削除した場合、置き換えるまでに、最終更新日または作成日から 5 日間待機する必要があります。
- Developer または Developer Pro Sandbox は、1 日に 1 回更新できます。
- Enterprise Edition には、25 個の Developer Sandbox と 1 個の Partial Copy Sandbox のライセンスが含まれています。
- Performance Edition には、1 個の Full Sandbox、5 個の Developer Pro Sandbox、100 個の Developer Sandbox、1 個の Partial Copy Sandbox のライセンスが含まれています。
- Unlimited Edition には、1 個の Full Sandbox、5 個の Developer Pro Sandbox、100 個の Developer Sandbox、1 個の Partial Copy Sandbox のライセンスが含まれています。
- Professional Edition には、10 個の Developer Sandbox のライセンスが含まれています。(変更セットは使用できません)。
- さらに多くの Sandbox のライセンスが必要な場合は、Salesforce に連絡して、組織で使用する Sandbox を注文してください。

Sandbox のディスク使用制限

- Partial Copy Sandbox には、5 GB のファイルストレージ制限と 5 GB のデータストレージ制限があります。
- Developer Pro Sandbox には、1 GB のファイルストレージ制限と 1 GB のデータストレージ制限があります。
- Developer Sandbox には、200 MB のファイルストレージ制限と 200 MB のデータストレージ制限があります。
- Full Sandbox のディスク使用制限は、本番組織の制限と同じです。
- Sandbox は、ディスク使用制限に達してもメール通知を送信しません。ただし、Sandbox のディスク使用制限に達すると、Sandbox に新しいデータを保存することはできません。ディスク使用制限を確認するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに「ディスク使用量」と入力し、Sandbox の [組織のディスク使用量] を選択します。

第 2 章 Force.com プラットフォームの制限

この章には、Force.com プラットフォームの制限が記載されています。

Apex ガバナ制限

使用可能なエディション: Salesforce Classic および Lightning Experience

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、**Developer** Edition、および **Database.com** Edition

Apex はマルチテナント環境で実行するため、Apex ランタイムエンジンは、回避 Apex コードまたはプロセスが共有リソースを独占しないよう制限事項を強制します。

トランザクション単位の Apex 制限

これらの制限は、Apex トランザクション単位でカウントされます。Apex の一括処理の場合、これらの制限は `execute` メソッドでレコードのバッチの実行ごとにリセットされます。

次の表では、同期 Apex と非同期 Apex (Apex の一括処理と `future` メソッド) が異なる場合、それぞれの制限を記載しています。制限が同じ場合、表には、同期および非同期 Apex の両方に適用される 1 つの制限のみが記載されます。

説明	同期 Apex の制限	非同期 Apex の制限
発行される SOQL クエリの合計数 ¹ (この制限はカスタムメタデータ型には適用されません。1 つの Apex トランザクション内で、カスタムメタデータレコードの SOQL クエリは無制限です)。	100	200
SOQL クエリによって取得されるレコードの合計数	50,000	
<code>Database.getQueryLocator</code> によって取得されるレコードの合計数	10,000	
発行される SOSL クエリの合計数	20	
1 つの SOSL クエリによって取得されるレコードの合計数	2,000	
発行される DML ステートメントの合計数 ²	150	
DML ステートメント、 <code>Approval.process</code> 、または <code>database.emptyRecycleBin</code> の結果として処理されるレコードの合計数	10,000	

説明	同期 Apex の制限	非同期 Apex の制限
<code>insert</code> 、 <code>update</code> 、または <code>delete</code> ステートメントによって繰り返しトリガする Apex 呼び出しのスタックの深さの合計数 ³		16
トランザクション内のコールアウト (HTTP 要求または Web サービスコール) の合計数		100
トランザクション内のすべてのコールアウト (HTTP 要求または Web サービスコール) の最大タイムアウト値		120 秒
Apex 呼び出し 1 回につき許可される <code>future</code> アノテーションを持つメソッドの最大数		50
<code>System.enqueueJob</code> によってキューに追加される Apex ジョブの最大数		50
許可される <code>sendEmail</code> メソッドの合計数		10
ヒープの合計サイズ ⁴	6 MB	12 MB
Salesforce サーバの最大 CPU 時間 ⁵	10,000 ミリ秒	60,000 ミリ秒
Apex トランザクションごとの最大実行時間		10 分
Apex トランザクションごとに許容される転送通知メソッドコールの最大数		10
各転送通知メソッドコールで送信できる転送通知の最大数		2,000

¹ 親-子リレーションのサブクエリを使用する SOQL クエリでは、各親-子リレーションは追加クエリとしてカウントされます。これらのクエリタイプは、最上位クエリ数の3倍に制限されています。これらのリレーションクエリの行数は、全体のコード実行の行数に加算されます。静的 SOQL ステートメントの他、次のメソッドへのコールは、要求内で発行された SOQL ステートメント数としてカウントされます。

- `Database.countQuery`
- `Database.getQueryLocator`
- `Database.query`

² 次のメソッドへのコールは、要求内で発行された DML クエリ数としてカウントされます。

- `Approval.process`
- `Database.convertLead`
- `Database.emptyRecycleBin`
- `Database.rollback`
- `Database.setSavePoint`
- `delete` と `Database.delete`
- `insert` と `Database.insert`
- `merge` および `Database.merge`
- `undelete` と `Database.undelete`

- `update` と `Database.update`
- `upsert` と `Database.upsert`
- `System.runAs`

³ `insert`、`update`、または `delete` ステートメントによってトリガを実行しない繰り返し Apex 処理は、1つのスタックを使用する1つの呼び出し内に存在します。それに対し、トリガを実行した繰り返し Apex では、コードを実行した呼び出しとは別の新しい Apex 呼び出しでトリガが発生します。Apex の新しい呼び出しの実行は、1つの呼び出しでの繰り返しコールよりも手間のかかる操作であるため、これらの種類の繰り返しコールのスタックの深さには、より厳しいトリガ制限があります。

⁴ メールサービスのヒープサイズは 36 MB です。

⁵ CPU 時間は、1つの Apex トランザクションで発生する Salesforce アプリケーションサーバ上でのすべての実行に対して計算されます。CPU 時間は、Apex コードや、このコードからコールされるすべてのプロセス (パッケージコードやワークフローなど) の実行に対して計算されます。CPU 時間は、1つのトランザクション専用であり、他のトランザクションからは独立しています。アプリケーションサーバの CPU 時間を消費しない操作は、CPU 時間には加算されません。たとえば、実行時間のうち DML、SOQL、および SOSL 用のデータベースに費やされた時間や、Apex コールアウトの待ち時間はカウントされません。

メモ:

- 制限は、各 `testMethod` に対して個別に適用されます。
- 実行中にコードのコード実行制限を決定するには、`Limits` メソッドを使用します。たとえば、プログラムによってすでにコールされた DML ステートメント数を決定するには、`getDMLStatements` メソッドを使用できます。または、コードに使用できる DML ステートメントの合計数を決定するには、`getLimitDMLStatements` メソッドを使用できます。

トランザクション単位の認定管理パッケージの制限

認定管理パッケージ (AppExchange のセキュリティレビューに合格した管理パッケージ) には、ほとんどのトランザクション単位の制限に対して独自の制限セットが設けられます。認定管理パッケージは Salesforce ISV パートナーによって開発され、Force.com AppExchange から組織にインストールされ、固有の名前空間を持ちます。

ここでは、DML ステートメントについて、認定管理パッケージに別個に設定される制限の例を説明します。認定管理パッケージをインストールすると、そのパッケージ内のすべての Apex コードには、独自に 150 個の DML ステートメントの制限が設定されます。これらの DML ステートメントは、組織のネイティブコードが実行できる 150 個の DML ステートメントに追加されます。この制限の緩和によって、管理パッケージのコードとネイティブの組織のコードの両方が実行されると、1つのトランザクションで 150 個を超える DML ステートメントが実行される可能性があります。同様に、同期 Apex については、認定管理パッケージには組織のネイティブコードの 100 個の SOQL クエリ制限に加え、独自に 100 個の SOQL クエリ制限が設定されます。

1つのトランザクションで呼び出せる認定名前空間の数は無制限です。ただし、各名前空間で実行できる操作の数は、トランザクションあたりの制限を超えることはできません。トランザクション内の全名前空間で実行できる累積操作数にも制限があります。この累積制限は、名前空間あたりの制限の 11 倍です。たとえば、SOQL クエリの名前空間あたりの制限が 100 だとすると、1つのトランザクションで実行できる SOQL クエリは最大 1,100 個です。この場合、累積制限は名前空間あたりの制限 100 の 11 倍です。これらのクエリは、いずれかの名前空間のクエリが 100 を超えない限り、無制限の数の名前空間で実行できます。累積制限は、すべての名前空間で共有される制限 (最大 CPU 時間の制限など) に影響しません。

-  **メモ:** これらのクロス名前空間制限は、認定管理パッケージの名前空間にのみ適用されます。認定されていないパッケージの名前空間には、別個に独自のガバナ制限がありません。使用するリソースは、組織のカスタムコードで使用されるのと同じガバナ制限に対してカウントされます。

次の表では、累積クロス名前空間制限について説明します。

説明	累積クロス名前空間制限
発行される SOQL クエリの合計数	1,100
Database.getQueryLocator によって取得されるレコードの合計数	110,000
発行される SOSL クエリの合計数	220
発行される DML ステートメントの合計数	1,650
トランザクション内のコールアウト (HTTP 要求または Web サービスコール) の合計数	1,100
許可される sendEmail メソッドの合計数	110

認定管理パッケージでは、次を除くすべてのトランザクション単位の制限は別個にカウントされます。

- ヒープの合計サイズ
- 最大 CPU 時間
- 最大トランザクション実行時間
- 固有の名前空間の最大数

これらの制限は、同じトランザクションで実行されている認定管理パッケージの数に関係なく、トランザクション全体に対してカウントされます。

また、Salesforce ISV パートナー以外が作成した未認定の AppExchange からパッケージをインストールする場合、そのパッケージのコードには、別個に独自のガバナ制限はありません。使用するリソースは、組織の合計ガバナ制限数に含まれます。累積リソースメッセージと警告メールも、管理パッケージの名前空間に基づいて生成されます。

Salesforce ISV パートナーパッケージの詳細は、「[Salesforce パートナープログラム](#)」を参照してください。

Force.com プラットフォームの Apex 制限

次の表の制限は、Apex トランザクションに固有ではなく、Force.com プラットフォームによって適用されます。

説明	制限
24時間あたりの非同期 Apex メソッド実行 (Apex 一括処理、future メソッド、キュー可能 Apex、およびスケジュール済み Apex) の最大数 ¹	250,000 と組織内のユーザーライセンス数 × 200 の大きい方の値
組織ごとの、5 秒を超える長時間の要求に対する同期同時要求数 ²	10
同時にスケジュールされる Apex クラスの最大数	100

説明	制限
Apex Flex キューに入っている Holding 状況の Apex 一括処理ジョブの最大数	100
同時にキューに入っているか有効な Apex 一括処理ジョブの最大数 ³	5
Apex 一括処理ジョブの start メソッドの最大同時実行数 ⁴	1
1つのテストの実行で送信可能な一括処理ジョブの最大数	5
24時間あたりのキュー可能なテストクラスの最大数 (Developer Edition 以外の本番組織) ⁵	500 または組織のテストクラス数の 10 倍の大きい方
24時間あたりのキュー可能なテストクラスの最大数 (Sandbox 組織および Developer Edition 組織) ⁵	500 または組織のテストクラス数の 20 倍の大きい方
ユーザごとに同時に開くクエリカーソルの最大数 ⁶	50
Apex 一括処理の start メソッドでユーザごとに同時に開くクエリカーソルの最大数	15
Apex 一括処理の execute および finish メソッドでユーザごとに同時に開くクエリカーソルの最大数	5
コールアウト要求に同じホストを使用する URL への最大同時要求数 ⁷	外部エンドポイントへの要求: 20 Salesforce 組織のドメイン内のエンドポイントへの要求: 制限なし

¹ Apex 一括処理の場合、メソッド実行には、start、execute、および finish メソッドの実行が含まれます。これは組織全体の制限で、他のすべての非同期 Apex (Apex 一括処理、キュー可能 Apex、スケジュール済み Apex、および future メソッド) と共有されます。この制限のカウント対象となるライセンスは、Salesforce フルユーザライセンスまたは Force.com アプリケーションサブスクリプションのユーザライセンスです。Chatter Free、Chatter カスタマーユーザ、カスタマーポータルユーザ、およびパートナーポータルユーザライセンスは含まれません。

² 10 個の長時間の要求が実行されている間に追加の要求を行うと、要求は拒否されます。

³ 一括処理ジョブが送信されると、処理用にシステムキューに移動されるまで、Flex キューに保持されます。

⁴ キュー内のまだ開始されていない一括処理ジョブは、開始されるまで保持されます。複数のジョブが実行されている場合は、この制限により一括処理ジョブが失敗することではなく、Apex の一括処理ジョブの execute メソッドが並行して実行されます。

⁵ この制限は、テストの非同期実行に適用されます。このテストグループには、開発者コンソールを含め、Salesforce ユーザインターフェースから開始するテストが含まれます。

⁶ たとえば、50 個のカーソルが開いていて、同じユーザとしてログインしたままのクライアントアプリケーションが新しいカーソルを開こうとすると、50 個のカーソルのうち最も古いカーソルが解放されます。異なる Force.com 機能のカーソル制限は個別に追跡されます。たとえば、50 個の Apex クエリカーソル、Apex 一括処理

の `start` メソッドに 15 個のカーソル、Apex 一括処理の `execute` および `finish` メソッドにそれぞれ 5 個のカーソル、および 5 個の Visualforce カーソルを同時に開くことができます。

⁷ ホストは、URL の一意のサブドメインで定義されます。たとえば、`www.mysite.com` と `extra.mysite.com` は 2 つの異なるホストです。この制限は、同じホストにアクセスするすべての組織で計算されます。この制限を超過すると、`CalloutException` が発生します。

静的 Apex の制限

説明	制限
トランザクション内のコールアウト (HTTP 要求または Web サービスコール) のデフォルトのタイムアウト値	10 秒
コールアウト要求または応答 (HTTP 要求または Web サービスコール) の最大サイズ ¹	同期 Apex の場合は 6 MB、 非同期 Apex の場合は 12 MB
SOQL クエリの最大実行時間。この時間を超えると、Salesforce によってトランザクションがキャンセルされます。	120 秒
Apex リリース内のクラスとトリガの最大コードユニット数	5,000
ループリストのバッチサイズ用	200
<code>Database.QueryLocator</code> の 1 回の Apex 一括処理クエリで返される最大レコード数	5000 万

¹ HTTP 要求のサイズおよび応答のサイズは、ヒープサイズの合計にカウントされます。

サイズ固有の Apex 制限

説明	制限
クラスの最大文字数	100 万
トリガの最大文字数	100 万
組織内のすべての Apex コードで使用するコードの最大量 ¹	3 MB
メソッドのサイズ制限 ²	コンパイル形式で 65,535 バイトコード命令

¹ この制限は、AppExchange からインストールされた認定管理パッケージ (AppExchange Certified とマークされたアプリケーション) には適用されません。これらのパッケージタイプのコードは、組織のコードとは異なる独自の名前空間に属しています。AppExchange Certified パッケージについての詳細は、Force.com AppExchange オンラインヘルプを参照してください。この制限は、`@isTest` アノテーションで定義されたクラスに含まれるコードにも適用されません。

² 制限を超える大規模なメソッドはコードの実行中に例外が発生する場合があります。

その他の Apex の制限

SOQL クエリのパフォーマンス

最高のパフォーマンスを得るためには、特にトリガ内のクエリに対しては、セレクティブ SOQL クエリを使用する必要があります。実行時間が長くなるのを避けるために、システムはセレクティブ以外の SOQL クエリを終了できます。200,000 件を超えるレコードを含むオブジェクトに対してトリガでセレクティブではないクエリを使用すると、エラーメッセージが表示されます。このエラーを回避するには、必ずセレクティブクエリを使用します。「より効率的な SOQL クエリ」を参照してください。

Chatter in Apex

ConnectApi 名前空間内のクラスの場合、各書き込み操作が Apex ガバナ制限で 1 回の DML 操作としてカウントされます。ConnectApi メソッドコールも、レート制限の対象となります。ConnectApi レート制限は、Chatter REST API レート制限と同じです。どちらにも、ユーザごと、名前空間ごと、時間ごとのレート制限があります。レート制限を超えると、ConnectApi.RateLimitException が発生します。Apex コードで、この例外をキャッチして処理する必要があります。

イベントレポート

システム管理者以外のユーザの場合、イベントレポートが返すレコードの最大数は 20,000 件です。システム管理者の場合、100,000 件です。

Data.com クリーンアップ

Data.com クリーンアップ製品とその自動ジョブを使用していて、取引先、取引先責任者、またはリードレコードで SOQL クエリを実行する Apex トリガを設定している場合、それらのオブジェクトでクエリがクリーンアップジョブに干渉する可能性があります。Apex トリガ(合計)は、バッチあたり 200 個以下の SOQL クエリにしてください。この制限を超えると、そのオブジェクトに対するクリーンアップジョブが失敗します。また、トリガが future メソッドをコールする場合は、バッチあたり 10 個の future コールに制限されます。

転送通知の制限

Salesforce 組織に関連付けられた各モバイルアプリケーションで許容される転送通知の最大数は、アプリケーションの種別によって異なります。

モバイルアプリケーション種別	アプリケーションごとの 1 日の最大通知数
Salesforce により提供されたモバイルアプリケーション (Salesforce1 など)	50,000
内部の社員向けに自社開発されたモバイルアプリケーション	35,000
AppExchange からインストールされたモバイルアプリケーション	5,000

配信可能な通知のみがこの制限にカウントされます。たとえば、通知が会社の 1,000 名の従業員に送信されるが、100 名の従業員はまだモバイルアプリケーションをインストールしていない場合を考えます。モバイルアプリケーションをインストールしている 900 名の従業員に送信された通知のみがこの制限にカウントされます。

[転送通知をテスト] ページで生成された各テスト転送通知の受信者は 1 名に制限されています。テスト転送通知は、アプリケーションの 1 日の転送通知制限にカウントされます。

API の制限

以下に、同時および合計 API 要求数、Bulk API 操作、API カーソル数についての API 制限と、一部の API の制限について取り上げます。

API 要求の制限

同時 API 要求数の制限

次の表は、20 秒以上の同時要求 (コール) 数について、さまざまな種類の組織に対する制限を示しています。

組織種別	制限
Developer Edition	5
トライアル組織	5
本番組織	25
Sandbox	25

API 要求数の合計に対する制限

次の表は、組織の 24 時間あたりの API 要求 (コール) 数の合計に関する制限について示しています。

Salesforce のエディション	ライセンスの種類ごとの API コール数	24 時間あたりの合計コール数
Developer Edition	なし	15,000
- Enterprise Edition - Professional Edition (API アクセス有効)	- Salesforce: 1,000 - Salesforce プラットフォーム: 1,000 - Force.com - One App: 200 - Gold Partner: 200	15,000 + (ライセンス数 × ライセンスの種類ごとのコール数)、最大 1,000,000
- Unlimited Edition - Performance Edition	- Salesforce: 5,000 - Salesforce プラットフォーム: 5,000 - Force.com - One App: 200	15,000 + (ライセンス数 × ライセンスの種類ごとのコール数)

Salesforce のエディション	ライセンスの種類ごとの API コール 24 時間あたりの合計コール数
	Gold Partner: 200
Sandbox	なし 5,000,000

DebuggingHeader には、24 時間あたり 1,000 コールの追加使用制限があります。

コール数の制限は、24 時間あたりに組織で行われた API コール数の集計に対して適用されます。この制限は、ユーザごとに適用されるものではありません。組織がこの制限を超過した場合、組織内のすべてのユーザが一時的にブロックされ、追加のコールを行うことができなくなります。直近 24 時間の使用状況が制限値内に収まるまで、コールはブロックされます。

Unlimited Edition および Performance Edition 組織では、システム負荷などのその他の制限要因によって、24 時間すべてのコール割り当てを使用できなくなる可能性が高まります。

Salesforce アプリケーションでは、システム管理者は [組織情報] ページ ([設定] から、[クイック検索] ボックスに「組織情報」と入力し、[組織情報] を選択) で過去 24 時間に発行された API 要求数を参照できます。システム管理者は、[レポート] タブに移動し、[管理レポート] フォルダを選択して [過去 7 日間の API 使用状況] レポートをクリックすることによって、過去 7 日間の API の使用状況に関する詳細なレポートも参照できます。

 **メモ:** 制限はすべてのエディションに自動的に適用されます。

API にコールを送信するアクションはすべて、次の場合を除いて使用制限に数えられます。

- アウトバウンドメッセージ
- Apex 呼び出し

また、Salesforce 製品で行われた特定の API コールは、[過去 7 日間の API 使用状況] レポートに表示されますが、使用制限にはカウントされません。次のアプリケーションによるコールは、使用制限にはカウントされません。

- Heroku Connect
- SalesforceIQ
- Salesforce Marketing Cloud

API 要求が指定した制限数の割合を超えた場合に、メールで指定ユーザに通知するように組織で設定できます。この設定を実行するには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「API 使用状況通知」と入力し、[API 使用状況通知] を選択します。

API 使用制限の計算例

次の例は、API 使用制限の計算について、いくつかのシナリオを通して説明しています。

- Salesforce ライセンスを 15 個割り当てられている Enterprise Edition 組織の場合、要求数の制限は 30,000 件です (15,000 + 15 個のライセンス X 1,000 件のコール)。
- Gold Partner ライセンスを 60 個割り当てられている Enterprise Edition 組織の場合、要求数の制限は 27,000 件です (15,000 + 60 個のライセンス X 200 件のコール)。

- Salesforce ライセンスを 15,000 個割り当てられている Enterprise Edition 組織の場合、要求数の制限は 1,000,000 件です。ライセンスの数 X 1,000 コールが最大値より大きい場合、下限の 1,000,000 が使用されます。
- 水曜日の午前5時に 14,500 件のコールが作成され、水曜日の午後11時に 499 件のコールが作成された Developer Edition の場合、木曜日の午前 5 時まで正常に作成できるコール数はあと 1 件だけです。

API 要求数の合計に対する制限の増加

ユーザライセンスに基づく API 要求数の制限の計算は、ユーザ数に基づいて組織に十分な利用可能数を許可するように意図されています。制限を引き上げる必要があるものの、ユーザライセンスの追加購入や Performance Edition へのアップグレードを希望しない場合は、API コールを追加購入できます。詳細は、営業担当者にお問い合わせください。

API コールを追加購入する前に、現在の API 使用状況を精査します。API に対するコールを行うクライアントアプリケーションが、独自のエンタープライズアプリケーションであってもパートナーアプリケーションであっても、最適化によって、同じ処理を行うのに使用する API コールを減らせる場合がしばしばあります。パートナー製品をお使いの場合、供給メーカーにお問い合わせいただき、その製品での API の使用が最適化されていることを確認してください。API の使用効率のよくない製品は、会社に不要なコストを負わせることとなります。

Chatter REST API の制限

制限によって、共有リソースが保護されます。これは、Chatter REST API のコンシューマの制限です。

Chatter REST API 要求はレート制限の対象になります。Chatter REST API には、他の Salesforce API とは異なるレート制限があります。Chatter REST API には、ユーザ、アプリケーション、および時間ごとのレート制限があります。レート制限を超過すると、すべての Chatter REST API リソースが 503 Service Unavailable エラーコードを返します。

Force.com のセッション ID を使用するアプリケーションの場合、レート制限はユーザごとおよび時間ごとになり、アプリケーションの個別のバケットはありません。セッション ID を使用してアクセスするすべてのアプリケーションでは、この一般割り当て数が使用されます。ユーザ、アプリケーション、時間ごとの制限を利用するには、OAuth トークンを使用します。

-  **メモ:** 負荷、パフォーマンスやその他のシステムの問題によっては、その制限に達する前に使用できなくなる場合があります。制限は、通知なく変更される場合があります。アプリケーションは、使用可能な要求を効率よく利用し、503 エラーコードを適切に処理する必要があります。

Bulk API の制限

Bulk API の制限	制限の説明
バッチの制限	24 時間内に送信可能なバッチ数は最大で 10,000 件に制限されています。作成後 24 時間を超えたジョブにバッチを関連付けることはできません。
バッチの有効期限	作成後 7 日を超えたバッチやジョブは、ジョブの状況にかかわらずキューから削除されます。この有効期限は、ジョブに関連付けられた最も新しいバッチの作成日時によって判断されます。バッチが含まれていないジョブ

Bulk API の制限	制限の説明
	ブでは、ジョブの作成日時が基準になります。作成後24時間を超えたジョブにバッチを関連付けることはできません。
バッチサイズ	- データ読み込みのバッチは 10 MB 以下の単一の CSV ファイル、XML ファイル、または JSON ファイルで構成できます。 1つのバッチには、最大で 10,000 件のレコードを含めることができます。 1つのバッチには、最大で 10,000,000 文字のデータを含めることができます。 1つの項目には、最大で 32,000 文字を含めることができます。 1つのレコードには、最大で 5,000 項目を含めることができます。 1つのレコードに含まれる項目には、合計で最大 400,000 文字を含めることができます。 - バッチには何らかのコンテンツが必要です。バッチが空の場合はエラーが返されます。
バッチの処理時間	バッチはチャンクで処理されます。チャンクサイズは、API バージョンによって異なります。API バージョンが 20.0 以前の場合、チャンクサイズは 100 レコードです。API バージョンが 21.0 以降の場合、チャンクサイズは 200 レコードです。各チャンクの処理時間には、5 分という制限があります。また、バッチ全体の処理に 10 分以上かかる場合、Bulk API ではバッチの残りがキューに戻され、後で処理されます。その後の処理でも 10 分以内に完了できない場合、バッチがキューに戻され最大 10 回まで処理が試行されます。それでも完了できない場合は、バッチ処理が完全に失敗したとみなされます。
バイナリ型のコンテンツ	- ファイル名の最大長は 512 バイトです。 - zip ファイルの最大サイズは 10 MB です。 - コンテンツの最大合計サイズは、圧縮解除した状態で 20 MB です。 1つの zip ファイルに含めることができるファイル数は最大で 1,000 ファイルです。ディレクトリはファイル数にはカウントされません。
一括クエリのクエリ試行回数	10 分ごとに 15 回、バッチを処理します。クエリの処理時間には 2 分という制限もあります。クエリの試行回数が 15 回を超えると、「Tried more than ten times (試行回数が 15 回を超えました)」というエラーメッセージが返されます。クエリの処理時間が 2 分を超えると、QUERY_TIMEOUT エラーが返されます。
一括クエリの取得ファイル数	15 個。クエリで返されるファイルが 15 個を超える場合は、クエリの検索条件を追加して返されるデータ量を減らす必要があります。一括バッチサイズは、一括クエリには使用されません。
一括クエリの結果の有効期限	7 日間。

Bulk API の制限	制限の説明
一括クエリの取得ファイルサイズ	1 GB
ジョブの Open 状態の時間	ジョブの状態が Open であるのは、作成後最大 24 時間までです。Bulk API では、バッチを毎時間に 1 つずつ、長時間にわたって追加するようなクライアントはサポートされません。

API クエリカーソルの制限

ユーザは一度に最大 10 個のクエリカーソルを開くことができます。同じユーザとしてログインしているクライアントアプリケーションが、新しい QueryLocator カーソルを開こうとしたときに、10 個のカーソルがすでに開かれていると、そのうち最も古いカーソルが解放されます。クライアントアプリケーションがリリースされたクエリカーソルを開こうとすると、エラーになります。

SOAP API コールの制限

API 名	API の制限	制限の説明
<code>create()</code>	最大作成レコード数	クライアントアプリケーションは、1 回の <code>create()</code> コールで最大 200 個のレコードを追加できます。create 要求が 200 オブジェクトを超えると、操作全体が失敗します。
<code>describeSObjects()</code>	返されるオブジェクトの最大数	<code>describeSObjects()</code> コールが返すことができるオブジェクトの最大数は 100 個です。
<code>emptyRecycleBin()</code>	ごみ箱内の最大レコード数	組織では、一度に 1 ライセンスあたり最大 5,000 件のレコードをごみ箱に入れることができます。たとえば、組織に 5 つのユーザライセンスがある場合、25,000 件のレコードをごみ箱に格納できます。組織のごみ箱が上限に達すると、Salesforce によって、ごみ箱に入れられてから 2 時間以上経過しているレコードが古い方から順に自動で削除されます。
<code>getDeleted()</code>	返されるレコードの制限	<code>getDeleted()</code> コールが 600,000 件を超えるレコードを返し、ユーザがシステム管理者の場合、EXCEEDED_ID_LIMIT 例外が返されます。 <code>getDeleted()</code> コールが 20,000 件を超えるレコードを返し、ユーザがシステム管理者ではない場合、OPERATION_TOO_LARGE 例外が返されます。ユーザが参照可能なデータだけでなく、組織全体で 20,000 件以上のレコードが削除された場合、このエラーが発生することにご注意ください。
<code>login()</code>	ログイン要求のサイズ制限	ログイン要求のサイズは、10 KB 未満に制限されています。

API 名	API の制限	制限の説明
<code>login()</code>	ユーザごとの最大コール数	<code>login()</code> は、1時間につき1ユーザあたり最大3600コールに制限されています。この制限を超えると、「Login Rate Exceeded」(ログイン数の制限を超えました。)エラーが表示されます。
<code>merge()</code>	マージ要求の制限	1つの SOAP コール内に、最大200件のマージ要求を作成可能です。 - 親レコードを含めて、最大3つのレコードが1つの要求にマージ可能です。この制限は、Salesforce ユーザインターフェースによって適用される制限と同じです。3件を超えるレコードをマージするには、連続するマージを実行します。 - 外部 ID 項目では、<code>merge()</code> を使用することはできません。
<code>update()</code>	最大更新レコード数	クライアントアプリケーションは、1回の <code>update()</code> コールで最大200レコードを変更できます。200レコードを超える更新要求がある場合、操作全体が失敗します。
<code>query()</code> および <code>queryMore()</code>	バッチサイズ制限	WSC クライアントでバッチサイズを設定するには、接続オブジェクトに対して <code>setQueryOptions()</code> をコールします。C# クライアントアプリケーションでこの設定を変更するには、<code>query()</code> コールを呼び出す前に、<code>QueryOptions</code> コールで SOAP ヘッダー部分にバッチサイズを指定します。最大バッチサイズは2,000レコードです。ただし、この設定はあくまでも目安です。要求されるバッチサイズが、実際のバッチサイズになるとは限りません。パフォーマンスを最大化するために変更が行われます。 SOQL ステートメントがロングテキストタイプの2つ以上のカスタム項目を選んだ場合、バッチサイズは200未満になります。これは、大きな SOAP メッセージを防止するためです。

ストリーミング API の制限

制限によって、共有リソースが保護されます。これは、ストリーミング API の基本コンシューマのデフォルトの制限です。

説明	Performance Edition および Unlimited Edition	Enterprise Edition	他のすべてのエディション
組織あたりのトピック (PushTopic レコード) の最大数	100	50	40
トピックあたりのクライアント (登録者) の最大数	2,000	1,000	20
全トピックの同時クライアント (登録者) の最大数	2,000	1,000	20
24 時間あたりのイベントの最大数	1,000,000	200,000	50,000 (無料の組織の場合は 10,000)
接続中のソケットタイムアウト (CometD セッション)	110 秒	110 秒	110 秒
接続成功後の再接続までのタイムアウト (keepalive)	40 秒	40 秒	40 秒
PushTopic レコードの Query 項目での SOQL クエリの最大長	1,300 文字	1,300 文字	1,300 文字
PushTopic 名の最大長	25 文字	25 文字	25 文字

 **メモ:** 無料の組織の場合、24 時間あたりのイベントの最大数は 10,000 です。無料の組織には、Developer Edition 組織、環境ハブを介して作成されたパートナーテスト組織とデモ組織などのトライアル組織 (すべてのエディション) があります。Sandbox は関連付けられた本番組織と同じ制限を受けます。

汎用ストリーミングの制限

汎用ストリーミングには次の制限が適用されます。

説明	Performance Edition および Unlimited Edition	Enterprise Edition	Professional Edition	無料の組織
組織あたりのストリーミングチャンネルの最大数	1,000	1,000	1,000	200
汎用ストリーミングを使用した場合の 24 時間以内のイベントの最大数 (API バージョン 36.0 以前)	100,000	100,000	100,000	10,000
デュラブル汎用ストリーミングを使用した場合の 24 時間以内のイベントの最大数 (API バージョン 37.0 以降)	1,000,000	200,000	100,000	10,000

 **メモ:** 無料の組織には、Developer Edition 組織、環境ハブを介して作成されたパートナーテスト組織とデモ組織などのトライアル組織 (すべてのエディション) があります。Sandbox は関連付けられた本番組織と同じ制限を受けます。

汎用ストリーミングのクライアント最大数と同時クライアントの最大数には PushTopic ストリーミングと同じ制限があります。汎用ストリーミングとデュラブル汎用ストリーミングには次の制限が適用されます。

説明	Performance Edition および Unlimited Edition	Enterprise Edition	他のすべてのエディション
汎用ストリーミングチャンネルあたりのクライアント (登録者) の最大数	2,000	1,000	20
汎用ストリーミングチャンネル全体での同時クライアント (登録者) の最大数	2,000	1,000	20

メール制限

API または Apex を使用して、グリニッジ標準時 (GMT) に基づき 1 日に最大 5,000 個の外部メールアドレスに単一メールを送信できます。Salesforce の Email Author やコンポーザを使用して送信されたメールは、この制限に含まれません。取引先、取引先責任者、リード、商談、ケース、キャンペーン、カスタムオブジェクトの各ページから、組織の取引先責任者、リード、個人取引先、ユーザに個別のメールを直接送信する場合は、制限はありません。

単一メールを送信する場合は、次の点に注意してください。

- 各 SingleEmailMessage の [宛先] 項目には最大 100 名の受信者、CC および BCC 項目には最大 25 名の受信者を指定できます。
- SingleEmailMessage を使用して組織の内部ユーザにメールを送信するときに setTargetObjectId でユーザ ID を指定すると、メールが 1 日あたりの制限値にカウントされません。ただし、setToAddresses で内部ユーザのメールアドレスを指定すると、制限値にカウントされます。

グリニッジ標準時 (GMT) に基づいて、1 組織あたり 1 日に最大 5,000 個の外部メールアドレスに一括メール送信できます。

メモ:

- 単一メールおよび一括メールの制限では、アドレスが一意であるかどうかは考慮されません。たとえば、メールに johndoe@example.com が 10 回含まれている場合、制限に対して 10 とカウントされます。
- ポータルユーザを含め、組織の内部ユーザに送信できるメールには制限はありません。
- 一括メールは、取引先責任者、個人取引先、リード、および組織の内部ユーザにのみ送信できます。
- Developer Edition 組織とトライアルで Salesforce を評価中の組織では、1 日あたり 10 個を超える外部メールアドレスに一括メール送信できません。この低い制限は、組織が Winter '12 リリースより前に作成されており、一括メール送信がすでに高い制限で有効になっている場合は適用されません。また、組織は 1 日あたり最大 15 個のメールアドレスに単一メールを送信できます。

メタデータの制限

次の制限は、Force.com IDE、Force.com 移行ツール、およびメタデータ API に適用されます。

制限	説明
メタデータの取得とリリース	一度に最大 10,000 ファイルをリリースまたは取得でき、リリースまたは取得する .zip ファイルの最大サイズは 39 MB です。次の点に注意してください。 - Force.com 移行ツールを使用して、展開したフォルダをリリースする場合、まずフォルダ内のすべてのファイルが圧縮されます。展開したフォルダ内の非圧縮コンポーネントの最大サイズは、圧縮率に応じて 400 MB 以下です。ファイルの圧縮率が高い場合、圧縮されたサイズは 39 MB を下回るため、合計およそ 400 MB を移行できます。ただし、バイナリ静的リソースのように、それほど圧縮できないコンポーネントの場合、移行できるのは 400 MB 未満です。 - メタデータ API base-64 では、コンポーネントを圧縮後にエンコードします。生成される .zip ファイルが SOAP メッセージの上限の 50 MB を超えることはできません。Base-64 エンコードではペイロードのサイズが増加するため、エンコードする前に、圧縮済みペイロードが約 39 MB を超えることはできません。
変更セット	受信および送信変更セットは、最大 10,000 ファイルのメタデータを持つことができます。

SOQL と SOSL の制限

機能	制限	制限の説明
SOQL ステートメント	SOQL ステートメントの最大長	デフォルトは 20,000 文字です。  メモ: 多数の数式項目を含むステートメントなど、長くて複雑な SOQL ステートメントでは、<code>QUERY_TOO_COMPLICATED</code> エラーが発生する場合があります。このエラーは、元の SOQL ステートメントが上限の 20,000 文字未満であっても、Salesforce によって処理されるときにステートメントが内部展開されるために発生します。これを避けるには、SOQL ステートメントの複雑さを軽減します。
SOQL WHERE 句	SOQL WHERE 句の最大長	4,000 文字
SOSL ステートメント	SOSL ステートメントの最大長	デフォルトは 20,000 文字です。この制限は、組織で定義されている SOQL ステートメントの文字数制限に関連付けられます。
SOSL 検索クエリ文字列	SearchQuery 文字列の最大長	SearchQuery 文字列が 10,000 字を超えると、結果行は返されません。SearchQuery が 4,000 文字を超えると、論理演

機能	制限	制限の説明
		算子はすべて削除されます。たとえば、4,001 文字の <code>SearchQuery</code> を含むステートメント内の <code>AND</code> 演算子は、デフォルトの <code>OR</code> 演算子になるため、予想よりも多くの結果が返される場合があります。
SOSL クエリ結果	返される最大行数	クエリでカスタム制限を指定しない限り、合計 2,000 件の結果 (API バージョン 28.0 以降)。以前の API バージョンで返される結果は 200 件です。
リレーションクエリ	リレーションクエリの制限	1 回のクエリに指定できる子-親リレーションは、35 個以下です。カスタムオブジェクトには最大 25 個のリレーションが許可されているため、1 回のクエリでカスタムオブジェクトのすべての子-親リレーションを参照できます。 1 回のクエリに指定できる親-子リレーションは、20 個以下です。 - 指定された各リレーションで、1 つの子-親リレーションに指定できるレベルは 5 つ以下です。たとえば、<code>Contact.Account.Owner.FirstName</code> は 3 レベルです。 - 各指定リレーション内で、親-子リレーションの 1 つのレベルだけが 1 つのクエリ内で指定可能です。たとえば、<code>FROM</code> 句が <code>Account</code> を指定している場合、<code>SELECT</code> 句では <code>Contact</code> かそのレベルの他のオブジェクトのみを指定できます。<code>Contact</code> の子オブジェクトを指定することはできません。
FOR VIEW と FOR REFERENCE	許容される最大 RecentlyViewed レコード数	<code>RecentlyViewed</code> オブジェクトは、ログインユーザがレコードを表示または参照するたびに更新されます。また、SOQL クエリで <code>FOR VIEW</code> または <code>FOR REFERENCE</code> 句を使用してレコードを取得した場合にも更新されます。最新のデータを確実に使用できるようにするため、1 オブジェクトにつきレコードが 200 件までになるよう、 <code>RecentlyViewed</code> データを定期的に切り捨てます。
OFFSET 句	OFFSET でスキップされる最大行数	最大オフセットは 2,000 行です。2,000 より大きいオフセットを要求すると <code>NUMBER_OUTSIDE_VALID_RANGE</code> エラーが発生します。

一部の Salesforce オブジェクトに固有の SOQL 制限とヒントは次のとおりです。

オブジェクト	説明
ContentDocumentLink	SOQL クエリの絞り込みでは、Id、ContentDocumentId、LinkedEntityId のいずれかを条件にする必要があります。
ContentHubItem	SOQL クエリの絞り込みでは、Id、ExternalId、ContentHubRepositoryId のいずれかを条件にする必要があります。
カスタムメタデータ型	カスタムメタデータ型は、次の SOQL クエリ構文をサポートします。 <pre>SELECT fieldList [...] FROM objectType [USING SCOPE filterScope] [WHERE conditionExpression] [ORDER BY field {ASC DESC} [NULLS {FIRST LAST}}]</pre> • <i>fieldList</i> および <i>conditionExpression</i> にメタデータリレーション項目を使用できます。 • FROM に追加できるのは1つのオブジェクトのみです。 • 次の演算子を使用できます。 - IN および NOT IN - =、>、>=、<、<=、!= - LIKE (ワイルドカードを含む) - AND • リレーション以外の項目にのみ ORDER BY を使用できます。 • リレーション以外の複数の項目で ORDER BY、ASC、および DESC を使用できます。 • ORDER BY は、並び替えられる項目が選択済みの項目の場合にのみ使用できます。 • メタデータリレーション項目では、すべての標準リレーションクエリがサポートされています。
外部オブジェクト	• 外部オブジェクトが含まれるサブクエリが取得できるデータは、最大 1,000 行です。 • 各 SOQL クエリ内の結合は、外部オブジェクトとその他の種別のオブジェクト全体で最大 4 個です。 クエリの実行時、結合ごとに外部システムへの往復処理が必要です。クエリ内の各結合に対して長めの応答時間を想定してください。 • 外部オブジェクトでは、次の集計関数と句をサポートしていません。 - AVG () 関数 - COUNT (fieldName) 関数 (ただし、COUNT () はサポートされている) - HAVING 句 - GROUP BY 句

オブジェクト

説明

- MAX() 関数
- MIN() 関数
- SUM() 関数
- 外部オブジェクトでは、以下もサポートしていません。
 - EXCLUDES 演算子
 - FOR VIEW 句
 - FOR REFERENCE 句
 - INCLUDES 演算子
 - LIKE 演算子
 - toLabel() 関数
 - TYPEOF 句
 - WITH 句

次の制限は、Salesforce Connect の OData 2.0 および 4.0 アダプタにのみ適用されます。

- 外部オブジェクトの場合、ORDER BY 句に次の制限があります。
 - NULLS FIRST と NULLS LAST は無視されます。
 - 外部オブジェクトは、リレーションクエリの ORDER BY 句をサポートしません。
- COUNT() 集計関数は、外部データソースで「要求の行数」が有効になっている外部オブジェクトでのみサポートされます。特に、外部システムからの応答には、結果セットの行の合計数を含める必要があります。

次の制限は、Salesforce Connect のカスタムアダプタにのみ適用されます。

- 外部オブジェクトのロケーションベースの SOQL クエリはサポートされていません。
- 外部オブジェクトの SOQL クエリに次の要素が含まれている場合、クエリに失敗します。
 - convertCurrency() 関数
 - UPDATE TRACKING 句
 - UPDATE VIEWSTAT 句
 - USING SCOPE 句
- ORDER BY 句の次の構文は無視されます。
 - NULLS FIRST 構文
 - NULLS LAST 構文

オブジェクト	説明
	次の制限は、SecureAgent を使用する SharePoint 2010/2013 の外部データソースに関連付けられている外部オブジェクトにのみ適用されます。 外部オブジェクトの SOQL クエリでは、IN 句で ID が約 15 個よりも多いと、エラー「この操作はセキュアエージェントには複雑すぎます」が返されます。IN 句の正確な制限は、SharePoint ID の長さに応じて異なります。
KnowledgeArticleVersion	- クエリで 1 つ以上の主キー ID を指定する場合を除き、必ず PublishStatus の値は 1 つだけ指定します。セキュリティをサポートするために、PublishStatus の値が Draft の記事は「記事の管理」権限を持つユーザーにのみ表示されます。 - アーカイブ済み記事のバージョンは、articletype_kav オブジェクトに保存されます。アーカイブ済み記事のバージョンをクエリするには、記事の Id を指定し、IsLatestVersion='0' を設定します。 - 必ず Language の値は 1 つだけ指定します。ただし、SOQL では、Id または KnowledgeArticleId に対する条件がある場合、複数の Language を指定できます。
NewsFeed	- ログインしたユーザーに「すべてのデータの参照」権限がある場合、SOQL の制限はありません。この権限がない場合は、LIMIT 句に 1,000 レコード以下を指定してください。 - リレーションを使用する項目に対して SOQL ORDER BY は使用できません。SOQL クエリでは、ORDER BY はルートオブジェクトの項目に対して使用してください。
RecentlyViewed	RecentlyViewed オブジェクトは、ログインユーザーがレコードを表示または参照するたびに更新されます。また、SOQL クエリで FOR VIEW または FOR REFERENCE 句を使用してレコードを取得した場合にも更新されます。最新のデータを確実に使用できるようにするには、1 オブジェクトにつきレコードが 200 件までになるよう、RecentlyViewed データを定期的に切り捨てます。
TopicAssignment	ログインしたユーザーに「すべてのデータの参照」権限がある場合、SOQL の制限はありません。そうでない場合は、次のいずれかの操作を実行します。 - LIMIT 句に 1,100 件以下のレコードを指定する。 「=」を指定した WHERE 句を使用する場合に、Id または Entity を絞り込む。
UserRecordAccess	必ず『SOAP API 開発者ガイド』で指定されたクエリ形式を使用してください。

オブジェクト	説明
	- ORDER BY 句を含めることができます。SELECT HasAccess の場合は ORDER BY HasAccess、SELECT MaxAccessLevel の場合は ORDER BY MaxAccessLevel を使用する必要があります。 - クエリ可能な最大レコード数は 200 件です。
UserProfileFeed	- ログインしたユーザに「すべてのデータの参照」権限がある場合、SOQL の制限はありません。この権限がない場合は、LIMIT 句に 1,000 レコード以下を指定してください。 - リレーションを使用する項目に対して SOQL ORDER BY は使用できません。SOQL クエリでは、ORDER BY はルートオブジェクトの項目に対して使用してください。 また、SOQL クエリには WITH UserId = {userId} を含める必要があります。
Vote	- ParentId = [単一の ID] - Parent.Type = [単一型] - Id = [単一の ID] - Id IN = [ID のリスト]

Visualforce の制限

制限	値
Visualforce ページの最大応答サイズ	15 MB 未満
Visualforce ページの最大ビューステートサイズ	135 KB
Visualforce メールテンプレートの最大サイズ	1 MB
Visualforce ページを使用したファイルアップロードの最大ファイルサイズ	10 MB
Visualforce ページが PDF として表示される場合の、表示前の HTML 応答の最大サイズ	15 MB 未満
PDF として表示される Visualforce ページの最大 PDF ファイルサイズ	60 MB
PDF として表示される Visualforce ページに含まれる全画像の最大合計サイズ	30 MB
JavaScript リモートコールの最大応答サイズ	15 MB
JavaScript リモートコールのデフォルトタイムアウト値	30,000 ミリ秒 (30 秒)
JavaScript リモートコールの最大タイムアウト値	120,000 ミリ秒 (120 秒)

制限	値
1 つの Visualforce ページ要求のクエリによって取得される最大行数	50,000
参照のみモードで 1 つの Visualforce ページ要求のクエリによって取得される最大行数	1,000,000
<code><apex:pageBlockTable></code> や <code><apex:repeat></code> などの反復コンポーネントで反復可能なコレクション項目の最大数	1,000
参照のみモードで、 <code><apex:pageBlockTable></code> や <code><apex:repeat></code> などの反復コンポーネントで反復可能なコレクション項目の最大数	10,000
1 つの Visualforce ページに表示可能な最大項目セット数	50
StandardSetController で処理可能な最大レコード数	10,000